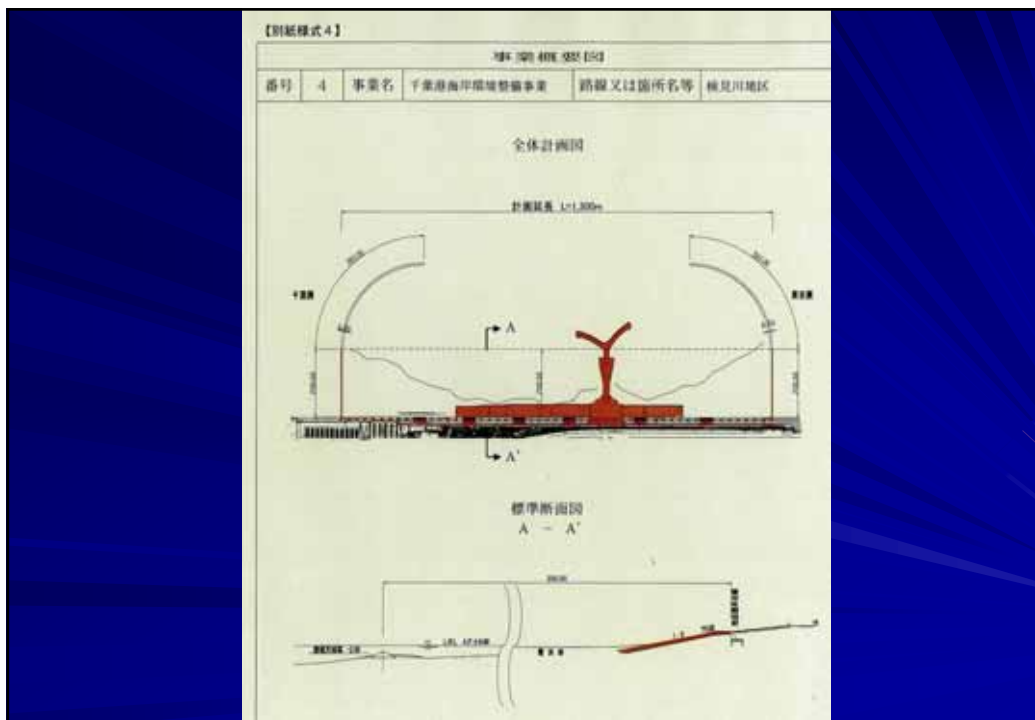




- ・ 箇所名 検見川地区
- ・ 事業所管課 港湾課
- ・ 事業主体 千葉県
- ・ 事業化年度 平成 4 年度
- ・ 工事着手年度 平成 4 年度
- ・ 工事終了年度 平成 24 年度
- ・ 再評価の理由 再評価実施後一定期間
5 年が経過している事業





海岸環境整備事業における便益の算定

< 対象便益 >

浸水防護便益

高潮による浸水から背後地の資産を守ることによる便益。

「浸水防護便益」= 高潮による被害額

- 一般資産等被害額（家屋・家庭用品・事業所資産）
- 公共土木施設被害額（橋梁・道路・公園等）
- 公益事業等被害額（電気・ガス・水道等）

海岸利用便益

レクリエーション等の利用維持・向上効果を生じさせる便益。

「海岸利用便益」= 旅行費用法による消費者余剰



海岸利用便益(旅行費用法)

- 消費者余剰の算定

3,587円/人・回

- 需要の推計

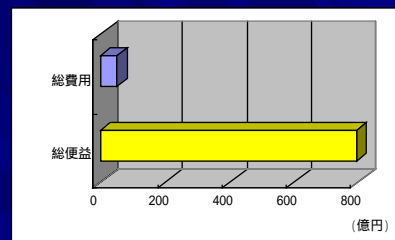
H19年利用者数 78,464人

- 利用便益の算定

$3,587\text{円/人}\cdot\text{回} \times 78,464\text{人/年}$
 $= 2.8\text{億円/年}$

総費用 (C) 50億円

総便益 (B) 796億円



- 費用便益比 (B / C) 15.9

【別紙様式5】 再々評価事業に関する調書					
番号	4	事業名	千歳港海岸環境整備事業	路線又は箇所名等	後見川地区
事業化年度	平成4年度	用地着手年度	—	工事着手年度	平成4年度
【再評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成14年度 (平成14年度)	供用開始年度	平成4年度	対応方針	継続
B/C	53.7	総費用	212億円	総便益	11,407億円
再評価時の委員会の意見及び当時の状況					
訂練の強化の原田究明と対策工及び維持管理方法について検討の必要がある。県民にとってはレクリエーションの場として親しまれているので、早急に効果が発揮できるよう整備すること。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定5年後の進捗状況					
	計	画	進捗状況	5年後の想定進捗状況	
全体事業費	126.3億円	—	87.3億円(69.1%)	107.8億円(85.4%)	
用地取得面積	—	—	—	—	
供用面積(延長)	1.3km	—	0.0km(0%)	0.6km(46.2%)	
【再々評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成19年度	供用開始年度	平成4年度	対応方針	継続
B/C	15.9	総費用	50億円	総便益	796億円
現在の進捗状況					
	計	画	進捗状況		
全体事業費	39.4億円	—	33.2億円(84.4%)		
用地取得面積	—	—	—		
供用面積(延長)	1.3km	—	1.0km(76.9%)		
再評価後の経過及び処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・養浜については、養浜砂の流出防止対策で既設護岸前に縦横斜護岸を施工した結果、現在はほぼ安定している状況であるため、沖に予定していた離岸堤の中止等の事業計画の見直しを行った。 ・隣接海岸と合同で実施した住民参加による「海岸づくり会議」で提案された浜へのバリアフリー化、海の見える遊歩道の設置、施設施設の改修など誰でも訪れやすく、海辺を楽しむ海岸づくりを進めている。 				

社会経済情勢等

背後地には多くの住宅を抱えており、防災拠点となる公共施設が多いこと。

マリンスポーツや日常的に利用する近隣住民が多いこと。

安心して海岸利用が出来るバリアフリーを目指した施設整備が望まれていること。

維持管理は、継続的に必要となるため、ボランティア、地域の協力等についても検討していく必要があること

対応方針(案)

背後地には多くの住宅を抱えており、防災拠点となる公共施設が多く高潮が発生した場合、災害時の防災活動に甚大な影響を及ぼすこと。

年間を通じて多くの県民に利用されていること。

事業の進捗率が約85%と高く、残事業についても平成24年度までに完成が見込まれること。



継 続